

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆいまーる・ふくしま			
○保護者評価実施期間	令和7年1月7日 ～ 令和7年3月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41件	(回答者数)	27件
○従業者評価実施期間	令和7年1月7日 ～ 令和7年2月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○本人支援 職員全員がひとりひとりの特性を理解することに努め、それぞれに合わせた環境作りや関わり方をする、また、自己選択・自己決定を促す支援を実施し、達成感や自己肯定感を持てるようにすることが子どもへの支援の基本だと考え支援にあたっている。	- 支援技術に関する研修を積極的に受講 - 日々の支援の振り返りを丁寧に実施 - できるだけ失敗させないよう、活動や課題の選択・設定に配慮する - 肯定的な関わりや「褒める」ことを常に意識している 「見通し」と「終わり」の支援を大切にしている	- 事業所内での勉強会、ケース検討等のあり方を見直す - 職員間の情報共有をより密にする
2	○保護者支援 - お子さんに関しての相談について、専門的な視点（特性など）から考えアドバイスすることができる。 - 送迎サービスに力を入れている。 - 相談や要望に対してできるだけ早急に対応できるよう努めている。	- 保護者学習会やペアレント・プログラムを定期的に実施している - 連絡帳を活用している - 療育場面の見学を受け入れている - 療育で使用している視覚的ツールなどを、家庭や園・保育所等でも使える仕様にして作成してお渡ししている	- 保護者学習会の内容の見直し - 日々の療育の様子や事業所からの伝達事項などをスムーズに発信し、保護者も簡易に見ることができよう工夫
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○情報の発信が微弱 - 避難訓練等を実施していることやマニュアル等の存在が保護者全員には伝わっていない - 職員としても、療育内容が十分に伝えられていない実感がある	年に4回紙面でのおたよりと法人のホームページでしか情報発信をしておらず、SNSなどを有効活用できていない。SNSについての知識を持ち駆使できる職員がいない。	SNSについて学び、活用していく
2	○地域とのつながり 地域の他の子どもとの交流	事業所として具体的にどのような支援が求められているのかよく理解できていない	ガイドラインについての学習会をしたり法人内の児童事業所とも話し合いをするなどして理解を深めたうえ、対応策を検討していく
3			